

孟蘭盆会では沢山の方に  
お参りいただきました。



7月9日



8月13日

7・8月

### 【法座の様子】



8/13 柳父一進師



7/9 森島順英師



8/27 片山豊幹師



7/23 濱畑兼一師

# しんらん同人

No.576

## 9・10

月号

## 9月24日(日) 彼岸会

春分と秋分には太陽が真東からのぼって真西に沈みます。その真西のはるか向こうに、阿弥陀如来の極楽浄土があると伝えられています。迷いの世界の向こうにある極楽浄土・彼岸を思い。阿弥陀如来の大慈悲により極楽浄土に生まれさせて頂く喜びと、先立たれた方々に感謝し、いつの日かの再会を思う法要が「彼岸会」です。今年9月24日(日)午後一時より執り行います。お誘いあわせの上お参りください。

### われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

最近、自分はいずれ死ぬけれども、家族の心の中にいつまでも生きていたいなという、身勝手な思いが出てきました。ところが、私自身ただけ父母や祖父母のことを思い出しているかと考えると反省ばかりです。早速、先立たれた方々のアルバムを身近に出して、坊守や子供たちと思いを話をするように努めています。皆様はどのようにしていらっしゃいますか。改めて、今あるのも周りの方々のおかげだと、感謝する日々です。



—『やすお』二人—  
(左)坊守の父 岡本泰雄  
(右)住職の父 古賀保雄



—学生時代から仲良し—  
泰雄(初代住職)と政枝(初代坊守)

浄土真宗本願寺派 誓願寺  
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8  
【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

# 聞法の難しさ・四本の徳利

誓願寺 前住職 故 岡本 泰仁



## 聞法の難しさ

聞法することは、誠に難しいことです。ただ耳に聞くのも聞くことですが、心にうなずいて聞くことも聞くことです。

ただ耳に聞くということは難しいことではない様に思いますが、聞く縁がなければなかなか聞かれないようです。

誓願寺にお参りされる人たちを見ても、随分遠くから参られる人がありますが、近所の人たちの参詣は割合に少ないように感じられます。遠くだから聞けない、近ければ聞きやすいとは言えないようです。

聞くということは、自分の意志で自由に聞けるように思っているが、どうもそうではないのかもしれない。

聞こうという気が起こるといことが先ず問題で、自分で聞こうという気持ちを起こさせてくれるようなはたらきがあるのではないのでしょうか。そのはたらきは、一つや二つのはたらきではなくて、数え切れない程の色々なはたらきが聞く気にさせてくれるのでしょうか。

「土徳」という言葉があります。ご法義の土地に生まれ育ったということであり、また先祖の人たちが法義に厚かった

ということ。自分の周りに篤信の念仏者がいたということ。その他いろいろなものがあるが、その人その人によって違うけれども深いご縁となって聞く気を起こさせて下さったのです。

本当に心にお念仏のいわれを聞きいただいて、如来の光明のお照らしに気づかしめられてみると、過ぎ来しかたの喜びも悲しみも何もかもが私にこのお念仏のおいわれを聞かせて下さる尊いご縁であり、はたらきであったと気づかせて頂けます。

聞く気が起こるといことも、本当に心に聞く身にさせて頂くこともみんなお計らいなのです。

聞法することの難しさは、私の煩惱、邪見にあります。愛欲の海に沈み、名利の山に踏み迷っている私が、自分で聞く気を起こすことが出来るはずはありません。聞法の難しさを思うにつけても、よくぞ聞く身にさせて頂いたことよと喜ばずにはられません。

頼ませて、頼まれたもう弥陀なれば、頼む心も、我と起ころじ。聞信することは、わが計らいではないのです。

## 四本の徳利

ここに四本の徳利があります。一本目にはお酒が入っていません。二本目には少々入っています。三本目にはいっぱい入っています。四本目は底に穴が空いていますので、お酒を入れても入れても漏れてしまいます。さて、浄土真宗のみ教えを頂いた姿はどれでしょうか。「お酒」の代わりに、「教えを聞くこと」と考えて下さい。

一本目は、教えを聞いていないので振っても音はしません。

二本目は、少し聞いた人で「なるほどそうか」と、振れば少し音がします、そして誰かに言いたくなります。

三本目は、いっぱい入っていますから、振っても音がしません。勉強している、わかっている、聞いているという人です。それから「なんだ、あんなことを言っているのか、あれじゃ駄目だ、こう言えば良いのに」と批判したり、加勢するような気持ちになったり。またよく分かっているものだから「なかなか良い話だ。若い者に聞かせてやりたい」と人のために聞く人です。また一方では、理屈や道理は分かっているながら、いよいよとなると安

心できない。持っているものがかえって邪魔になって、これで大丈夫だろうかと自問するがそこから抜け出せない。

「安心とは、弥陀を一心一向に頼み申せば、やがて御たすけあるなり。さればこそ安き心なり。まことに安きなり」であって、それを自分でこうなったからという思いに引つかかっているなら、いよいよの時になんの役にも立ちません。そうなるとやはり聞くことが大切です。

間違いないお誓い、救わずにはおかぬという大悲です。聴聞は自分の計らいで聞くのではなく、仰せのまま頂くのですが、それが難しいのです。

四本目の徳利は、そのたびごとに初事として聞く。聞くたびに広大な慈悲を仰いでありがとうございますと喜ばせてもらう。あとは何も残らない。家に帰って、もう一度言っごらんと言われても説明できない。だが、有難かったと喜ぶことは出来ます。

ためていないからです。あの時はこうだったと覚える必要がないのです。

ご法座に会うごとに、なんと広大な慈悲だろうと、初めてのようには聞かせてもらいます。少しも溜まりませんので、聞くたびに新しいものがいくらでも入ります。

「ひとつことを聞いて、いつも珍しく初めてたるように、信の上にはあるべきなり。ただ珍しき事を聞きたく思うなり。ひとつことをいくたび聴聞申すとも、珍しく初めてたるようにあるべきなり」

本願を聞くたびに、間違いない慈悲だと喜ばせてもらっている人が、本当に聞いている人なのです。

空っぽだから何も無い、何も無いから、ご縁に会うたびに「おかげさまで」と報恩の念佛が喜ばれます。

「聞いて抜け出て初めてと」そこまで聞かせてもらいたいものです。

合掌

ご法座等  
のご案内

どなたでもご自由に  
ご参加いただけます。  
参加費は無料です。



9月

9・10  
(日)

■午前十時〜

■婦人会物故者追悼法要

【葦原理江師（京都府）】

■正午〜

医療相談

【佐藤公彦医師】

9・17  
(日)

■午前十時〜

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

9・24  
(日)

■午後一時〜

■彼岸会・祥月命日合同法要

【副住職 古賀明德（東京都）】

10月

10・8  
(日)

■午前十時〜

定例法座

【上野隆平師（京都府）】

■正午〜

医療相談

【佐藤公彦医師】

10・15  
(日)

■午前十時〜

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

10・22  
(日)

■午後一時〜

定例法座・祥月命日合同法要

【副住職 古賀明德（東京都）】

編集後記



・東京の状況に合わせて「盂蘭盆会」を七月八月の二回開催いたしました。それぞれに多くのお参りがありました。来年も同様に行います。

・酷暑の中で、今年ほど秋の訪れを待ち望むことはありませんでしたが、まだまだ記録的な残暑が続くようです。コロナ対策と同時に体力回復にも注意が必要です。

・副住職が、五月の築地本願寺での常例布教に続き、九月に本山でも常例布教を行う等、布教使としての活動が実現しています。おかげさまで少しずつ成長しています。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

・令和六年度の「来寺記念品」が決定いたしました。お楽しみに。



〔古賀明德 副住職〕

